

平成25年度 校区外部評価 自己評価表（最終まとめ）

学校名

第四日野小学校

【学校評価表の作成および評価にあたっての留意事項】

- 各学校では、それぞれの項目ごとに「本校の基本的な考え方」を記入してください。
また、教育委員会事務局が示した「評価指標（黄色い部分）」のほかに、各学校で、必要に応じて評価指標を設定してください。その際は、各学校の重点的な取組と関連させて評価指標を設定をしてください。なお、必要に応じて行を増やしていただいてもかまいません。
- 校区外部評価委員による外部評価委員会が開催される前に、学校は、自己評価結果（取り組みの状況や変化等）について、必ず説明をしてください。
（校区外部評価委員は、その説明と実際に自分が見た学校の状況等により、評価します。）

【校区外部評価委員の皆様へ】

☆評価をする際には、実際に授業等を見た内容だけでなく、学校が説明した内容、聞き取った内容も十分に参考にしてください。従いまして、評価のために必要と思われる情報や資料につきましては、遠慮なく学校にご請求くださいますようお願いいたします。

評価項目1 基礎学力の定着

本校の基本的な考え方 <small>(特に身に付けさせたい力、重点的な実践内容など)</small>	◇ 本項目では、生きる力の基盤となる知・体を、より高い次元で徳と関連付けてバランスよく定着させる。 ①児童にとって分かる授業、充実感の得られる授業を展開するため、指導者として常に授業の量的確保・質的改善を図る。 ②授業成立の基盤である「聞く・話す」のけじめを始め、『四日野っ子のちかい』の定着を徹底し、授業時間の効果的な活用を図る。 ③学習の基礎的内容である「読み」「書き」「計算」を、各学年において確実に定着させる。				
	評価指標	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価委員についての教職員の意見	校長の態度表明
①児童・生徒は、学習の構え(学習するぞという雰囲気、学習の準備)ができています。	A-1 B-7 C-1 B	学年により差が激しい。学年が上がるに連れ授業や指導する教師への好き嫌いが強くなる。今後、学校全体の共通実践として、「学習の構え」が習慣化されるようにしたい。	全体的に見て、おおむね良いと思うが、落ち着きがない児童が目立つ学年がある。 座る姿勢、ノートの書き方に課題のある児童への日々の指導を、さらに継続し、徹底することが大切である。	・話の聞き方と姿勢の保持が学校全体の課題である。その都度、見逃さずに粘り強く指導する。	◇以下のことを通して、四日野っ子のちかいを達成し、基礎学力を定着させる。 ・学習への構えは学習意欲と表裏一体のものである。一層の授業改善に努め、「聞きたい」「活動したい」授業の実現をめざす。
②児童・生徒は、授業中、教員や友達ときちんとした言葉でやり取りをしている。(単語や拳手だけの応答となっていないか。)	A-0 B-6 C-3 B	学年による。教師に対し「○○ちゃん」と呼ぶ児童が相変わらず見受けられる。低学年から共通実践をし、大人と子供、教師と児童のけじめをつけたい。	親しみを込めての事だと思いが、親が呼ぶから子供もそう呼ぶようになると思う。保護者の意識を変えるように働きかけのことも必要である。教師を敬う態度の育成が大切である。	・授業中は「～さん」と呼び合うこと、また、語尾まできちんと話すことを意識して指導してきたが、徹底しきれなかった。場面場面でのけじめをつけられるよう、指導していく。	・学習中の話し方については、論理的な思考の基礎ということからも、語尾まできちんと話すことを徹底する。呼称については、単に教師と児童のけじめというだけでなく、年長者を敬う、礼を尽くすという意味まで児童に伝えながら指導するとともに、保護者への働きかけも積極的に行う。
③教師の指導に、メリハリをつけている。	A-1 B-7 C-1 B	指導すべき場面で指導しても、反発として返ってくるのがあった。「だめなものだ」「何をすべきか」を主体的に考え判断する児童を育てる指導を目指し、今後も研修を深めたい。	もう少し毅然とした姿勢で児童に接してほしい。 あるクラスの授業で、生徒が自分の考えたことを黒板の表にマグネットで表示し、先生はその考え方に対する意見を皆に求めるという場面があった。正解を教え込むのではない本当の考える力を育む素敵な授業だと思った。 どの先生も、メリハリのある授業をしていた謙遜していると思う	・「ぶれない」指導の大切さを改めて感じている。	・「メリハリ」ということは、徹底した児童理解・児童に寄り添うという側面と、不適切な行動・行為をきちんと指導するという側面、その二つがあって成立すると捉え、全職員でそのことを常に念頭に置き、指導にあたる。また、高学年になれば、「きまりはわかっているが守れない」という状況も出てくる。「なぜこのきまりがあるのか」を理解し、場面に応じて正しく判断し行動する力を身に付けさせる指導を大切にしていきたい。
④教師は、価値のある体験活動を実施している。(見ている、その体験活動の意味やねらいが分かるか。)	A-2 B-6 C-1 B	地域の方や学習材を活用し、芋掘りやお店体験活動、地域清掃や避難所訓練など価値のある体験活動を行った。しかし、縦割り班などルーチンな活動でより効果的に改善する必要がある。	活動後、子供たちの興味が社会へ向くことが多い。有意義な体験になっている。	・地域と連携した学習活動が、いずれの学年でも充実してきている。 ・通常の授業における「体験活動」の充実も、常時心がけたい。	◇体験活動については、常に「ねらい」と「内容」の整合性を見極め、活動内容の妥当性を検討しながらよりよいものにしていく。
⑤『四日野っ子のちかい「学習の決まり5か条」』が徹底されているか。	A-0 B-6 C-3 B	残念ながら徹底されているとはいえない。実施後2年という期間なので現在の低学年から積み上げ、習慣化を徹底したい。	目標、規則について生徒自らが考え自分たちのこととしてとらえているものなのかどうか、教師が6年間で育てたい姿の共通理解されているのかどうか、育ちが見えるとは思えないことがある。 実施する意味を理解させ、主体的に取り組めるような工夫が大切	・教師が一方的に叱ったり指導したりするのではなく、きまりについてその意味を子供たちが自ら考える場面を、積極的に作っていきたい。	

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目2 社会性・人間性の育成

本校の基本的な考え方 (特に身に付けさせたい力、重点的な実践内容など)	◇ 本項目では、生きる力の基盤となる徳を、より高い次元で知・体に関連付けて定着させる。 ①『四日野っ子のちかい』を基に、統一のある生活指導を推進し、社会での基本的マナーやルールを守る態度を育てる。 ②市民科授業の量的確保・質的改善を図る。 ③「学校に来ることが楽しい、充実している」と感じられる学級経営を展開する。				
	評価指標	自己評価	校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての教職員の意見	校長の態度表明
①学校は、市民科の授業を計画的に実施している。	A-3 B-5 C-1 B	学習指導要領で言うと、「特別活動」的なことは計画的に実施されているが、「市民科＝特別活動ではない」という意識の下、改善を図りたい。	授業中の発言の仕方について、相手を意識した話し方(声量や内容の組み立てなど)を、市民科で身に付けさせるとよい。 市民科は、何をやる時間なのか曖昧に感じる。	・市民科で育成する力の一つにコミュニケーション能力が確かにある。市民科の授業だけで育成できるものではないが、そのような意識をもっていきたい。	◇以下のことを通してし、四日野っ子のちかいの達成をめざし、社会性・人間性の育成を図る。 ・市民科学習を充実させる。他地区からの教員の転入などもある中、市民科の意義やねらいを学校全体として定期的に再確認する必要がある。特に年度当初に実行していく。また児童の行動から市民科指導を評価し、指導改善につなげていく。
②教師は、あいさつや礼儀、場に応じた行動など、しつめるべきことをしっかりと指導している。	A-2 B-8 C-0 B	指導しているが、児童の差が激しい。また、教員による差も見受けられる。家庭での影響も大きいので、家庭との連携・啓発が今後の課題である。	こちらから挨拶をすればちゃんと挨拶を返してきます。 教育は人となりであると考えている。それは教師自らの人間性を高めるその言動の全てが子どもの手本となること、子どもたちを信じることに他ならず、全教職員がそうであるとは言いがたいように思う。 挨拶は、家庭の躰けだと思知らない人例えば誰かのお母さんじゃ無いと、子供からは、挨拶出来ない時代なのかも。	・学年の発達段階を考え、特に高学年では、場に応じた行動を自分たちで考え、実行することができるよう、指導のあり方を改善していく。	・生活指導の充実を図る。児童の行動に正対し理解すること、学校全体での毅然とした指導を両立させる。また、望ましい行動について児童自身が考える場を充実させる。そのために、各担任や担当が守らせたいきまりについて具体的にどのよう指導しているのか、教員の情報交換を密にする。
③児童・生徒は、市民科で学んだことをもとに適切な行動をとろうとしている。(市民科で学んだことが日常生活の中で定着しているか。)	A-1 B-7 C-1 B	学年の状況による。とくに市民科で学んでいるから定着しているとは言えない。	ねらいを明確にして指導に取り組んで欲しい。反復、継続も必要	・ねらいを明確にすることを、常に心がける。	・率先垂範の意識を一層高くもち、児童の前に立つ教師として、常に児童の手本となるという基本に常に立ち返る。
④教師が範を示している。	A-2 B-7 C-1 B	学区域での携帯プレーヤーやスマートフォン「ながら歩き」は見かけなくなった。	特に問題はありません。どの先生も明るく挨拶、声掛けして下さることが多い。 教師自身の問題、全員が自信をもってAと自己評価できるようになることが大切である。	今後も良識ある社会人として、児童の模範となるよう行動していく。	・学級だよりの発行や、四日野っ子週間の内容や取り組み方の工夫などにより、家庭と連携して望ましい行動を身に付けさせるようにしていく。
⑤『四日野っ子のちかい「生活の決まり5か条」』が徹底されているか。	A-0 B-6 C-4 B	2年目となるが、残念ながら特に生活面で徹底されているとは言えない。共通実践をどう進めるか今後の課題である。	目標、規則について生徒自らが考え自分たちのこととしてとらえているものなのかどうか、先生方が6年間で育てたい姿として共有されているのかどうか、育ちが見えるとは感じられないことがある	学級によって差があった。「自分たちのこと」として捉えさせ考えさせる指導をしていきたい。	

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目3 小中一貫教育の推進

本校の基本的な考え方 (重点的な取組内容など)	◇ 本項目では、品川区小中一貫教育要領による学校教育の一層の充実を図る。 ①荏原一中グループの研究・研修を充実し、学年末へ向けて具体的な成果をあげる。 ②保護者や地域が、小中一貫教育のよさをより深く理解するように努める。				
	評価指標	自己評価	校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての教職員の意見	校長の態度表明
①教師は、小中一貫教育の意義を十分踏まえた指導をしている。	A-2 B-7 C-0 B	特に中学校教員との連携は、実のある交流や共同研究を行っている。	本校卒業生の中学校進学後の活躍(学業、文化的活動、スポーツ等)を伝え、具体的な例を伝えるようにするとよい。	中学生になった先輩たちの姿が見えるよう、情報伝達を工夫する。	◇教員による中学校の授業参観を充実させ、一層の連携を図る。 ・教員同士が指導観をぶつけあい、お互いの指導をリスペクトすること、職種による状況の違いを理解することが大切である。積極的に中学校の授業を参観し、教員同士の交流をさらに促進する。
②小中一貫教育のよさが児童・生徒に伝わっている。	A-0 B-3 C-6 C	実際には、柔道教室や英語検定の連携中学校での受検等実施しているが、児童が意識的によさを自覚するまでには至っていない。	学校が離れているので施設一体型との格差はあると思います。一貫では、無い教育と比べる物が、無いから自覚に至らないと思う、それが当たり前の事だから	3学期に中学校の先生(非常勤講師)が本校でも授業を持つようになり、高学年児童にとっては中学校を身近に感じたようだ。	◇ICT活用を核として、荏原第一中学校との連携を。
③学校は、保護者・地域に、小中一貫教育のよさを理解してもらう努力をしている。	A-2 B-6 C-1 B	小中一貫ニュースの発行など、他区に比べれば相当な努力をしている。	伝える努力はしている。しかし、良さはなかなか伝わっていないと思う。		◇中学校長による本校保護者向け講話や中学校教員による柔道教室に加え、6年生算数などでも中学校教員による授業を実施する。
④職員自身が中学校との連携を前向きに意識し、具体的な事業に意欲的に取り組んでいるか。	A-1 B-7 C-1 B	教科部会での教員相互の交流や、部会ごとの共通指導事項の実践など、連携は確実に深まっている。	お疲れ様です	各教科部会を中心に、教員同士では自然な形で連携が着実に進んでいる。	

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目4 保護者・地域との連携

本校の基本的な考え方 (重点的な取組内容など)	◇ 本項目では、第四日野小学校の地域の特性に根ざした保護者・地域との連携を充実する。 ①様々な行事を通して、保護者や地域と、本校教職員との関わりを深め、相互理解を促進する。 ②PTAや地域の行事に、より多くの職員が参加し、保護者や地域との関係を円滑にする。				
	評価指標		自己評価		校区外部評価委員による評価
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価委員の意見	校長の態度表明
①学校は、保護者・地域に対して積極的に関わったり情報発信したりしている。	A-6 B-4 C-1 A	昨年度に比べ、ホームページや学級だよりで工夫が見られるようになった。しかし、進級に当たって、新旧担任の引継ぎで、共通理解を図らなければならない課題が生じた。	便りについては、その量や内容に関して、学年ごとに差があるように感じている。	・学級だよりの発行により、日常的に子供たちの様子を伝えるように努めた。	◇日頃から保護者・地域とのコミュニケーションに努めることで、「課題が生じたときにもスムーズに協力しあえる関係を作る。そのために、学級だよりの発行、HPの一層の充実、PTA活動や地域の行事や祭りなど、地域の方々が大事にしている行事への参加を行っている。
②学校は、保護者・地域の力を十分に生かして教育を進めている。	A-6 B-5 C-0 A	特に今年度は、学習支援ボランティアや交通安全ボランティア等を統合して「四日野ボランティア」とすることができた。また、昼食会で情報交換が定着し、23学期で3回実施した。	地域も巻き込んだ教育は充実している。ボランティア、保護者が互いに納得できるようなマネジメントができれば、より一層充実した活動になると思う。	・学年の発達段階や児童の状況によって、ボランティアさんをお願いしたいことも変わってくる。その都度お伝えしていけるようにしたい。	◇学習支援ボランティアや地域講師の招聘を一層充実させる。特に、ボランティアと教員とのコミュニケーションを密にし、子供にとってのよりよい環境・指導をめざして連携できるようにする。
③職員は、本校の教育課題を解決するための第1段階である相互理解を深めるため、様々な行事に参加し、連携に努めているか。	A-8 B-2 C-1 A	昨年に比べ、第1・3土曜日が授業日となり、「参加すると、ほとんど土曜日が休めない」状況が生じている中では、よく参加に努めた。	地域やPTAの行事などにも積極的に参加してもらっている姿に、頭が下がる思いである。		

自己評価：A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目5 環境整備・美化

本校の基本的な考え方 (重点的な取組内容など)	◇ 本項目では、施設の安全確保と学習環境の改善、児童の環境教育を推進する。 ①児童が安全に過ごせるよう、全職員が「安全確保」の高い意識を持って点検・改善を行う。 ②各室が機能的に使用されるよう積極的に整備を図る。 ③リサイクル活動など、資源を有効に活用する教育を充実する。				
	評価指標		自己評価		校区外部評価委員による評価
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価委員の意見	校長の態度表明
①学校は、常に、児童・生徒の安全に配慮している。	A-10 B-1 C-0 A	休み時間の校庭監視や校内巡視、学期開始直前の安全確認や月1回の安全確認など組織的に確認されていた。	配慮している。校舎も安全管理に適した構造であると思う。生徒の人数把握も担当が確実に行うことが出来るというメリットがある。	・今年度は、月一回の安全指導の内容を前日まで全体で確認し、指導を充実させることができた。	◇看護当番活動など日常的な取り組みを確実に行うことを継続し、安全な学校を実現する。
②学校は、ふさわしい環境(掲示、清掃等)を整える努力をしている。	A-4 B-6 C-1 B	やや必要以上の掲示に溢れてしまう傾向があるものの、担当の教師や児童の委員会活動を通して、適切な環境整備に努めた。	校舎は古いがきれいにしている。児童が安心して過ごせる環境が整っている。	・これからもきれいに使っていきたい。	◇今後とも清潔な学校をつくる。「きれいに使っている。」と評価していただいていることに誇りを持ち、職員、児童ともに、さらに美しい環境作りを努める。
③学校は、資源(電気や紙など)の無駄遣いをなくす努力をしているか。	A-5 B-6 C-0 B	子供リサイクル活動が定着するなど、教育の場として児童を巻き込んだ節約やリサイクルに取り組めた。	空き缶のリサイクルが、昔と変わってお金にならないと聞き、学校に持って行くより、家庭のゴミで出すようになってしまった。	・子供リサイクルについて、継続するだけでなく、集めたものがどうなっているのかまで含めて学びが得られるように工夫していく。	

自己評価：A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目6 いじめ防止に関する取組み

本校の基本的な考え方	◇ 本項目では、いじめが発生しても解決できる、温かな人間関係の息づく、本校の風土作りを進める。 ①学級王国に陥ることなく、全教職員が149名の全児童を見取り、育成する体制を作る。 ②いじめは人間が集まれば発生するという前提に立ち、迅速な対処に全力を尽くす。 ③関係機関と連携・情報を共有して、問題行動を起こす児童の背景や環境の改善に働きかける。				
	評価指標	自己評価	校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての教職員の意見	校長の態度表明
①児童・生徒アンケートや、その他の取組みを具体的に実施して早期発見に努め、発見時は組織的な対応をしている。	A-2 B-7 C-0 B	生活アンケートは定期的を実施し、いじめの早期発見・早期対応に努めた。ただ、学級の状況により、指導が入らずなかなか改善されない面もあった。	校外での一部児童のいたずら等でいじめに発展することも考えられる。虚めは、表面化しないのと、虚めてる意識と受け取り方と有るので難しいと思う。過去に被害妄想や、大人に構って欲しく虚められていると、訴えた子も居て、大人も周りの子も振り回された事があった。 アンケートに正直に回答しているのを知りたい。いじめは特に高学年になるにつれて、隠れて行われている。	・学年ブロックで児童を見ていく体制はできたが、教員同士の真のコミュニケーションという意味では、まだ不十分であった。児童の行動に正対し、早期発見をし、組織的な対応にしていこう。 ・アンケートは児童の状況を把握するための方法のごく一つに過ぎないことを念頭に、指導にあたる。	◇「いじめは絶対に許さない」学校を実現する。 ・「いじめは起こる」という認識を常にもち、小さなことでも報告・連絡・相談する。学年ブロック制を強固にするとともに、情報交換だけに終わらず、実際の対応も複数で最後まであたることを徹底する。 ・月ごとの生活アンケートはすべてに管理職・主幹教諭が目を通し、いじめの兆候や学級の実態把握を行う。 ◇「いじめは絶対ゆるさない」心を育てる。 ・市民科の学習はもちろん、四日野人権月間、ふれあい月間など様々な機会を通して、児童一人一人に「自分のこと」として考えさせ、「いじめはしない・許さない」心を育てられるよう指導していく。
②未然防止のために、市民科を中心にした指導を展開している。	A-2 B-5 C-2 B	「いじめがあるかもしれない」と言う意識で、市民科だけでなく、教育活動全体を通じて、未然防止に努めている。	赤ちゃんとふれあい活動、保幼との連携交流等、自己有用感につながり他者を受けとめる力の育成の一端を担っていると思う。もう一歩深く入り込んで、いじめに対する取り組みを強化すべき。	いじめを「自分たちのこと」として受け止め、いじめを起こさないためにはどうしたらよいかを「自分たちで考える」指導を展開していく。	◇児童の行動に正対して指導する。 ・「児童は行動でものを言っている。」という認識に立ち、行動の背景など徹底した児童理解に努める。その上で毅然とした指導をし、望ましい行動ができるよう導く姿勢を貫く。
③お互いを認め尊重し合う「受容的な雰囲気」が学級に培われているか。	A-1 B-6 C-2 B	学級による。「受容的」についての職員の捉え方を共通にしていこうが課題である。	特別活動の取り組み等評価委員等外部の方々にも見える良いのではと感じた。	教室がどの子にとっても、「間違えてもだいじょうぶな、安心な空間になっているか」ということを常に振り返り、指導を改善していく。	
④職員は、自分の学級・分掌だけに限定し抱え込むことなく、内外と連携していじめ等問題の解決に当たっているか。	A-2 B-7 C-1 B	教員による指導の方針の違いが、学級が荒れるという状況の一因となった。学校全体として「学級を開く」という方針を徹底し、一致した生活指導を再確認の上、進めている。	教師同士の連携をもっと強化し、小さな問題もどんどん出せる環境が必要	小さな問題を出し合うだけでなく、組織として、複数で対応・解決できるようにしていきたい。	

自己評価：A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

評価項目7 学校独自の特色ある教育活動

本校の基本的な考え方	◇ 本項目では、特色ある教育活動の充実を図り、本校の魅力を高める。 ①小規模校のメリットを生かして、学習指導・生活指導を機動的に展開し、保護者の信頼を獲得する。 ②本校の歴史や伝統、地域の特色を生かした教育活動を展開し、『地域が誇る、強く、やさしい四日野っ子』の育成を目指し、保護者や地域の信頼を獲得する。 ③保・幼との連携を充実させ、地域・保護者の信頼を獲得する。				
	評価指標	自己評価	校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての教職員の意見	校長の態度表明
①個に応じた指導の充実で、児童の学習力・生活力を大きく伸ばしているか。	A-2 B-5 C-2 B	個に応じた指導に努めているが、今後は、授業時間の中で、習熟度別の展開をより効果的にしていくよう工夫を図りたい。	少人数指導の強みを生かして、効果が上がるように、一人一人にあった指導の工夫が必要	・単に少人数にするだけでなく、個の実態に応じた課題設定や指導の展開の仕方について、さらに工夫していく。	◇少人数の強みと弱みを十分に認識し、よりよい指導を展開する。 ・少人数であることが、「手をかけすぎること」に繋がる面も自覚する。小規模な中で、「児童が自ら考え、正しく判断する力」を身につけさせるためのよりよい指導を、常に模索していく。
②職員自身が率先して保護者や地域と関わり、本校の学区域の特色を踏まえて前向きに連携しているか。	A-3 B-6 C-1 B	地域での祭りや行事など、例年決まったものに参加する職員は多かった。	連携している。年々協力的になっていると思う。忙しい中、地域のお祭りなどで、よく先生方を見かけた。子ども達はとても喜んでた。	・地域の公共機関や企業と連携した授業が、各学年において定着してきている。	◇学校を応援して下さる地域・保護者の力を総動員した教育活動を展開し子供に力をつけるとともに、学校の魅力を高める。そのために、教員一人一人が自分を開き、地域・保護者と関わり、「地域に学ぶ活動・地域で学ぶ活動」を充実させることを継続する。また、行事や日常の集会活動などを地域にさらに開き、児童や職員がのびのびと積極的に発信する。
③学校は、『地域が誇る、強く、やさしい四日野っ子』の育成へ向け、高学年児童が「貢献」したり、各学年の児童が地域と関わりたりする場の設定をしているか。	A-2 B-5 C-3 B	残念ながら、掲げた目標には至っていない。低学年からのよき指導の積み重ねが、最高学年で現れるよう努めたい。	6年間で指導内容が、変わってしまうと難しいと思う。地域とは密着していると思う。積み重ねてきたものが一気に崩れてしまった。積極的に地域と関わることは続けて欲しい。	・「貢献」については明確にすることができなかった。	
④近隣保育園・幼稚園との連携を推進しているか。	A-6 B-4 C-0 A	連携はかなり進み、自然な形で西五反田保育園が立寄るようになった。交流会も定着した。モーニングコンサートに近隣保育園が立寄る姿も見られた。	大変積極的に連携している。近隣保育園にとって安全に思い切り体を動かすことのできる場となっている。保育者と教師の連携を進めることでより一層意義のある活動になると思う。	・学区内の保育園との連携をさらに進めることができた。	◇保育園との連携を、教員レベルでもさらに充実させる。保育者の思いを小学校教員が受け止めることで、保育園・幼稚園～小学校のその子の学びを(小中連携と同様に)さらに連続したものとしていく。

自己評価：A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

その他 お気付きの点を自由にお書きください。